

湖沼湿原調査

地形調査 「風蓮湖周辺及び温根沼地区」

—湖沼を取り巻く自然環境—

国土地理院
地理調査部 環境地理課

目次

1. 地形分類図について
 - ① 地形分類図とは
 - ② 凡例について
2. 概要について
3. 災害と地形について

1 地形分類図の作成方法



空中写真判読



各種資料調査



簡易ボーリング調査

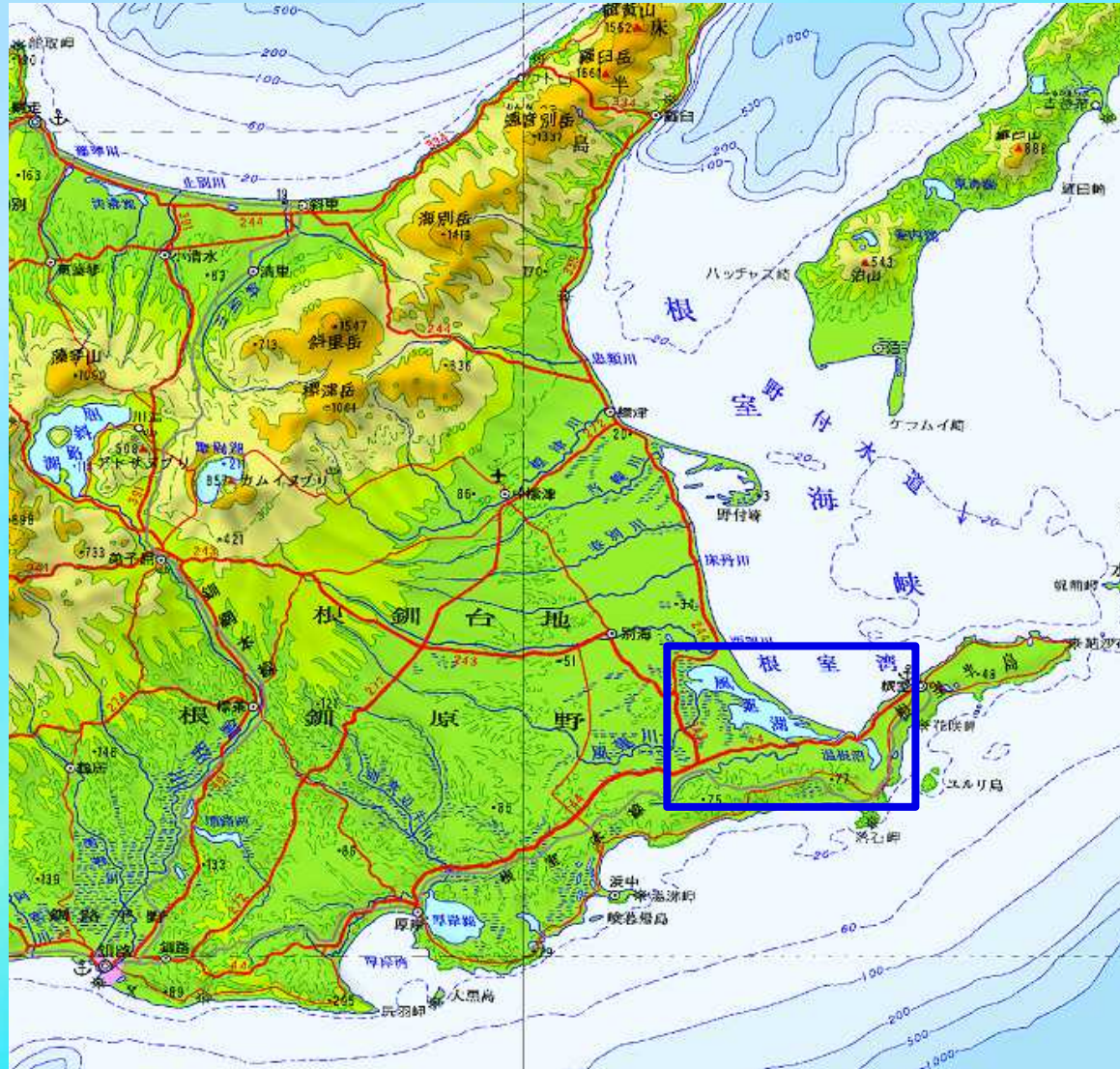


露頭調査

地形の分類 と定義

	区分		定義
	大区分	小区分	
自然地形	山地	山地・斜面	山地・丘陵地のいわゆる斜面の部分。段丘崖にも適用。
		地すべり	地すべり現象で生じた地形。地すべりによって生じた崖（滑落崖）と、すべった土塊の到達範囲（押し出しの範囲）を表示している。
		主要分水界	山地・丘陵地（主として斜面で表現される地域）における主要な稜線で河川の流域界を成すもの。
	台地・段丘	完新世段丘面	約1万年以降に形成された段丘面。
		更新世段丘面	約260万年前から約1万年前に形成された段丘面。
	低地の一般面	扇状地	河川が山地から出た個所に河川が運び出す土砂が堆積して形成された扇形の地形。
		氾濫平野・谷底平野	河川の堆積作用により形成された低平な土地。
		三角洲	河口における河川の堆積作用によって形成された平坦地。
		海（湖）岸平野	相対的に海（湖）面の低下によって陸地となった平坦地。
	凹地・浅い谷	凹地・浅い谷	台地・段丘や扇状地などの表面に形成された凹地や浅い流路跡、または、隣合う扇状地の境界付近の相対的に低い部分。
	低地の微地形	自然堤防	洪水時に運ばれた砂やシルトが流路沿い、または、その周辺に堆積してできた帯状の高まり。
		後背低地	自然堤防などの背後にある低地のほか、河川の堆積作用があまり及ばない低湿地。
		旧河道	低地の一般面より低い帯状の凹地で過去の河川流路の跡。
		湿地	地下水位が高く、排水性が極めて悪い低湿地。
		潮汐平地	干潮時に水面上に現われる平坦な土地。
		砂州・砂碛	波浪により作られた砂礫質の高まり。
		砂丘	風で運ばれた砂が堆積して形成された小高い丘。
		河川敷・浜	堤外地のうち、水面以外の部分および海岸・湖岸の波打ち際の砂浜・礫浜。
	水部	河川・水涯線及び水面	河川は、原則として常時水流がある部分。水涯線は自然状態における水陸の境界線。水面は河川、湖沼、海、貯水池などの表面。
		旧水部	旧版地形図、米軍撮影写真等より、水部と確認されたもののうち、現在埋土、盛土等に改変されたもの。
変動地形	活断層	最近数十万年間に、概ね千年から数千年の周期で繰り返し動いた跡が地形に現れ、今後も活動を繰り返すと考えられる断層。	
	活断層（位置不明確）	活断層のうち、活動の痕跡が侵食や人工的な要因等によって改変されているために、その位置が不明確なもの。	
	活断層（伏在部）	活断層のうち、最新の活動時以降の地層で覆われ、変位を示す地形が直接現れていない部分。	
	推定活断層	地形的な特徴により、活断層の存在が推定されるが、現時点では明確に特定できないもの。	
人工地形	切土地	山地・丘陵地、台地などの斜面を、主として切り取りにより造成した平坦地または緩傾斜地。	
	盛土地	沼沢地、河川敷、谷などを埋立て・盛土して造成した土地。	

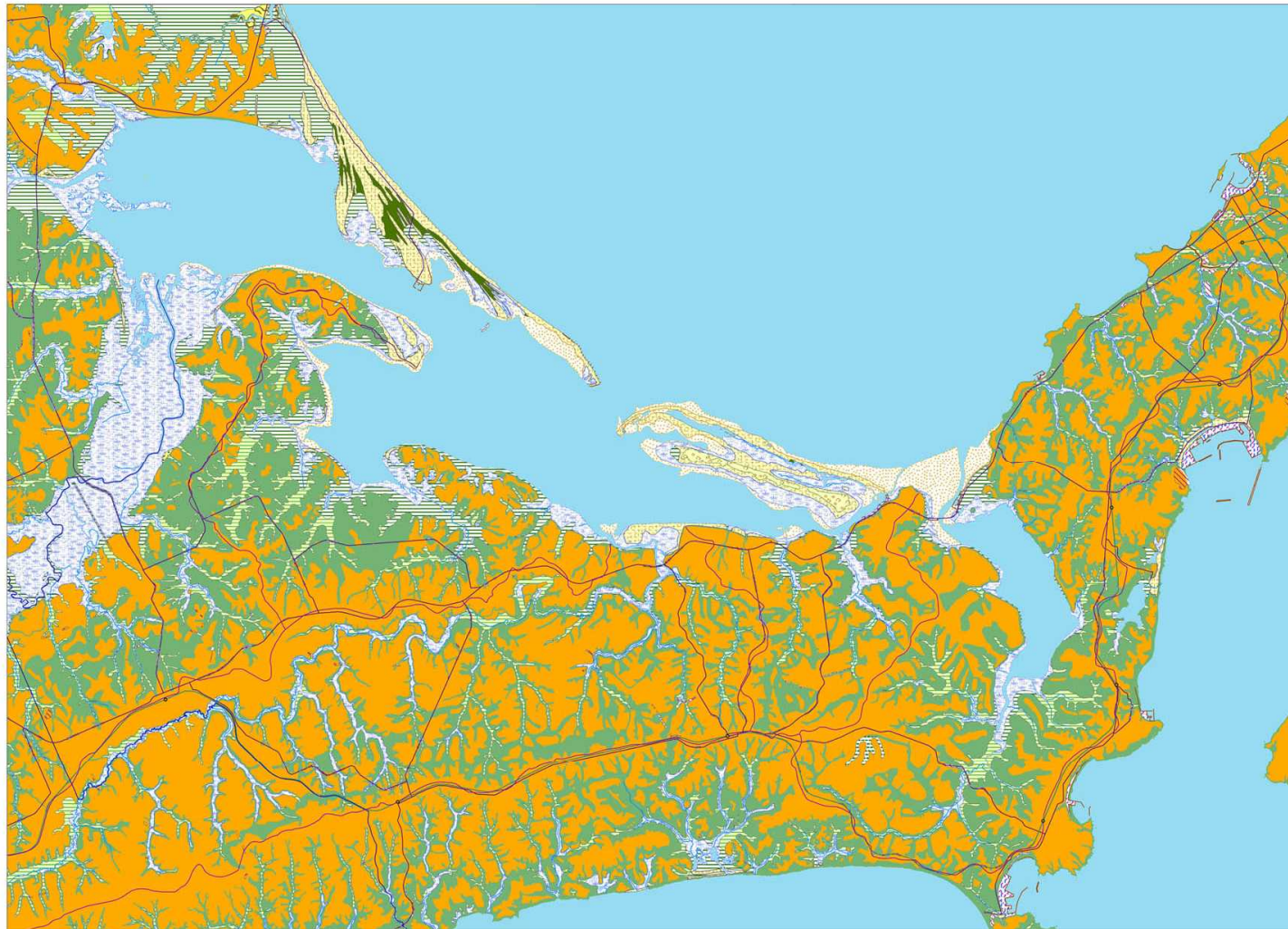
風蓮湖周辺及び温根沼地区



地形分類図

-68.0km
77.5km

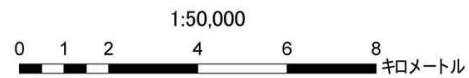
-68.0km
109.5km



- 山地・斜面**
 - 山地・斜面
- 台地・段丘**
 - 更新世段丘
- 凹地・浅い谷**
 - 凹地・浅い谷
- 低地の一般面**
 - 三角洲
 - 扇状地
 - 氾濫平野・谷底平野
 - 海(湖)岸平野
- 低地の微地形**
 - 後背低地
 - 潮汐平野
 - 砂丘
 - 砂州・砂堆
 - 自然堤防
- 水表面**
- 湿地**
- 旧水部**
- 河川敷・浜**
- 旧河道**
- 人工地形**
 - 切土地
 - 盛土地

平面直角座標 第XIII座標系

-91.0km
77.5km



-91.0km
109.5km

国土地理院

国土地理院技術資料D-1-No.563

風蓮湖周辺及び温根沼地区 の地形の概要

■ 台地・段丘

別海台地、浜中台地、根室台地

■ 低地

根室湾に面する風蓮湖周辺

別海台地、浜中台地、根室台地を開析する風蓮川、別当賀川沿いの谷底平野

■ 湖沼

風蓮湖、温根沼、長節湖

風蓮湖周辺及び温根沼地区地形分類図



1)山地・斜面及び主要分水界



主要分水界:山地・丘陵における主要な稜線で、河川の流域界をなすもの。

山地・斜面:山地・丘陵または台地の縁などの傾斜地。

2) 台地・段丘



台地・段丘：台状または階段状の地形。平坦面の範囲を表示している。台地・段丘の形成時期は低地よりも古く、また一般に高い位置にあるものほど形成時期が古い。更新世（約260万年～1万年前に形成）と完新世（1万年前以降に形成）に分類。

3) 氾濫平野・谷底平野



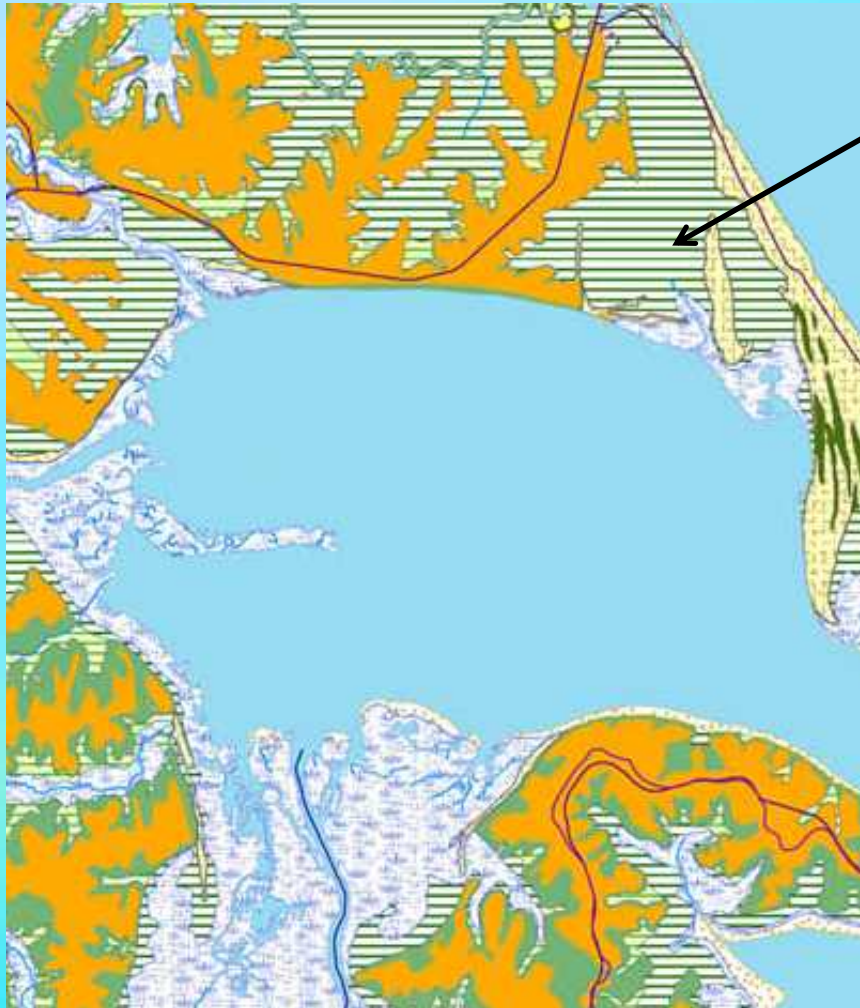
氾濫平野・谷底平野: 河川の堆積作用によって形成された低く平らな土地。砂、シルト、粘土等からなり、地盤は軟弱である。

4)三角州



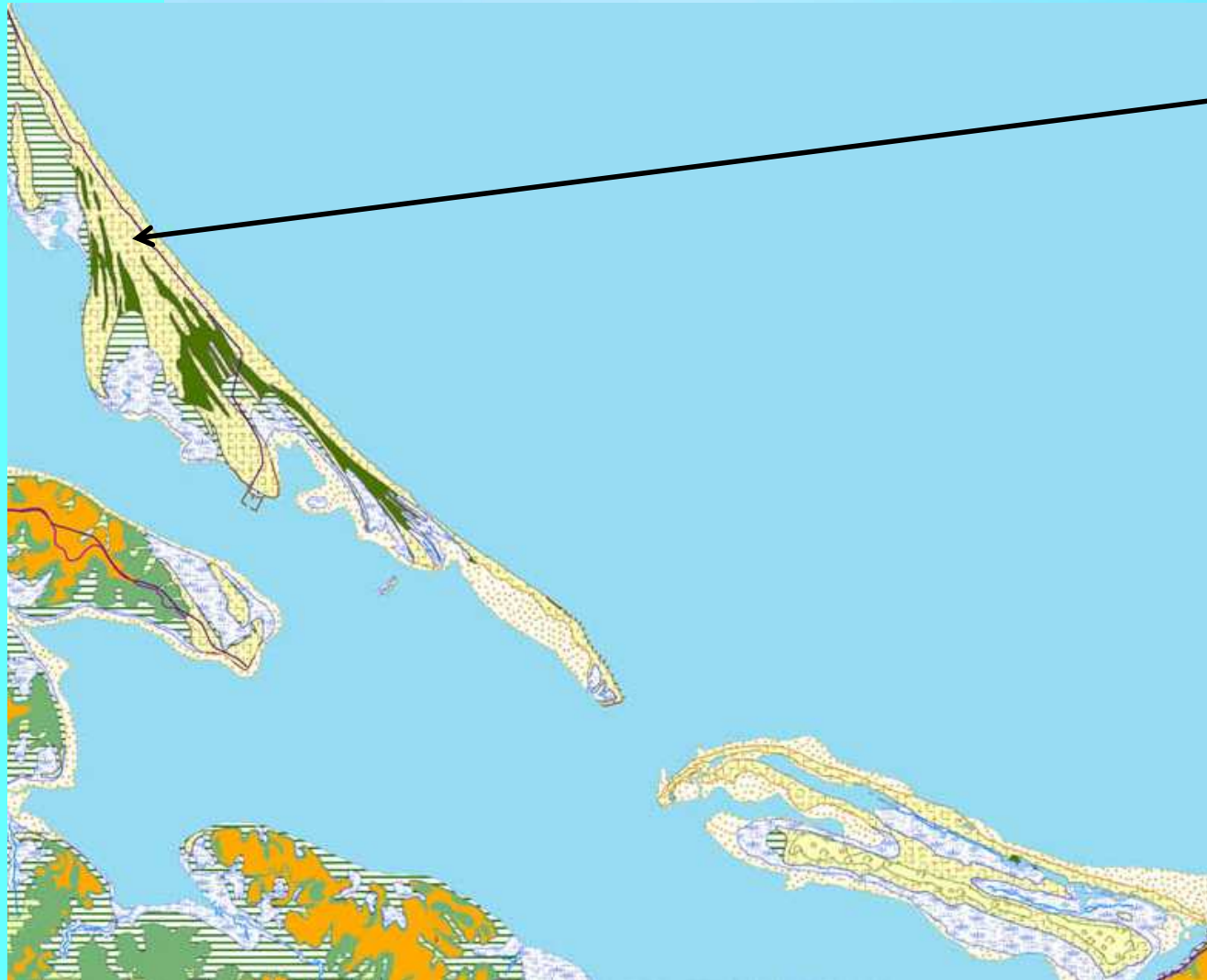
三角州:河口における河川の堆積作用によって形成された平坦地。

5)海(湖)岸平野



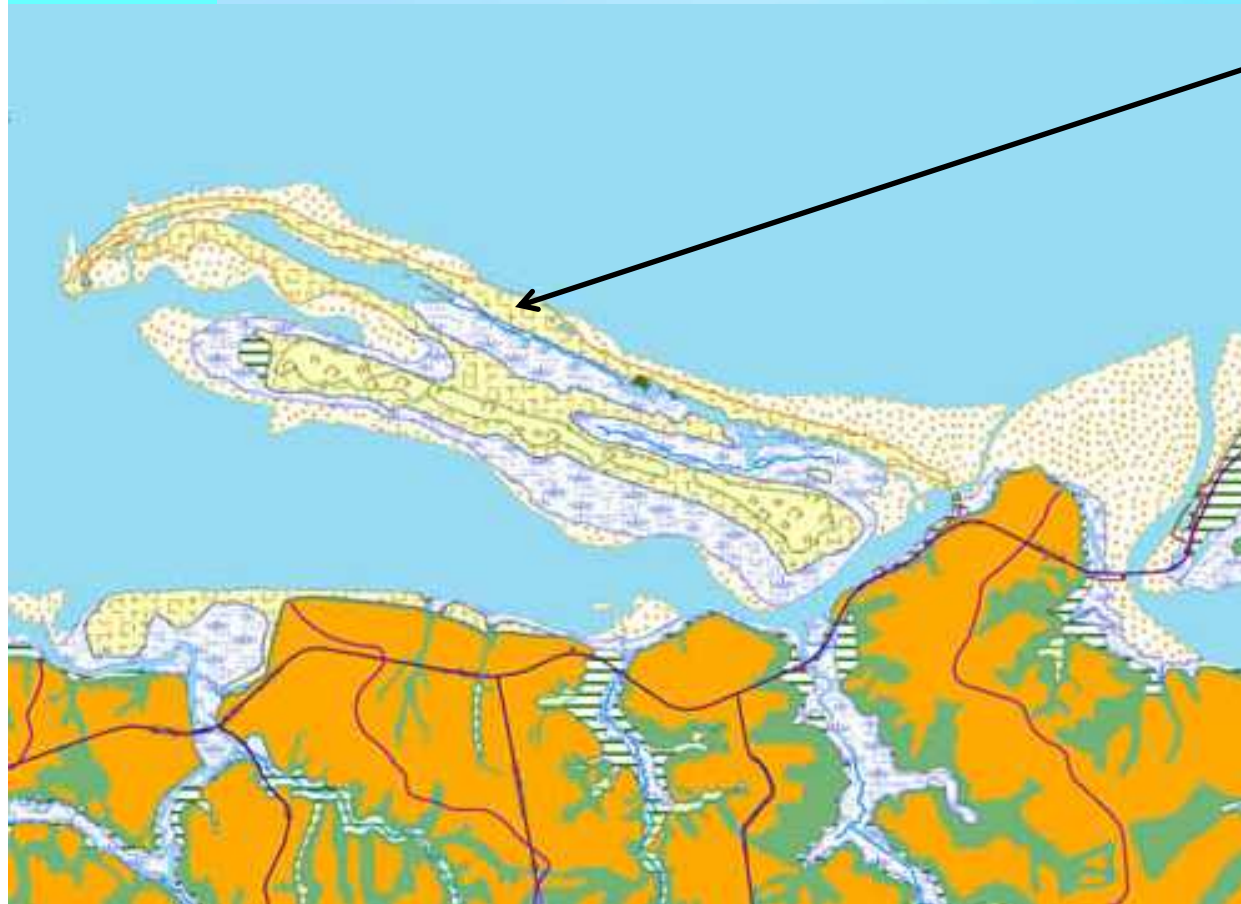
海(湖)岸平野:
相対的に海
(湖)面の低下
によって陸地と
なった平坦地。

6)砂州・砂堆



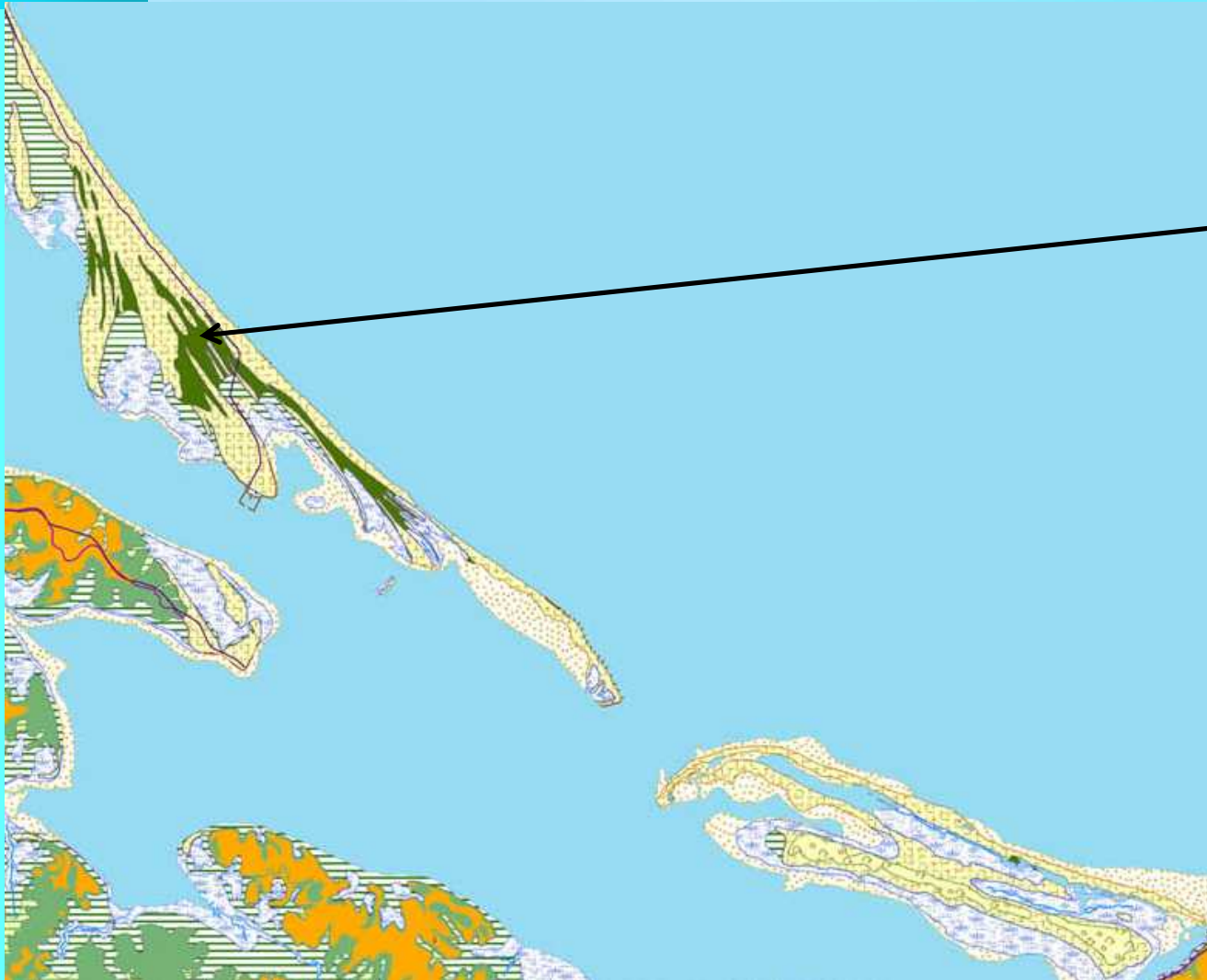
砂州・砂堆：現在および過去の海岸、湖岸付近にあって、波浪により作られた砂礫質の高まり。

7)砂丘



砂丘: 風で運ばれた砂が堆積して形成された小高い丘。

8) 後背低地



後背低地：河川の堆積作用があまり及ばない低湿地。

9) 潮汐平野

潮汐平野: 干潮時に水面上にあらわれる平坦な土地。



10)旧水部



旧水部:旧版地形図、米軍撮影写真等より、水部と確認されたもののうち、現在埋土や盛土等に改変されたもの。

3 災害と地形

地形分類から何がわかるか ～表現事項の読図～

地形分類

- * 地盤の安定度(強度・固結度)
- * 排水性の良否

災害と地形

①地震(地盤災害)で被害を受けやすい地形

低地の一般面(氾濫平野、海(湖)岸平野、三角州、後背低地、旧河道など)

埋立地、盛土・切土の境界部、谷埋め盛土地

②水害を受けやすい地形

低地(盛土地を含む。ただし、扇状地・自然堤防は排水は良好である)

③土砂災害を受けやすい地形

谷底平野、扇状地、段丘崖

地形分類図の利用 ~各種の基礎資料として~

自治体等

地域の防災計画や土地の開発・利用・保全計画等の策定や検討、ハザードマップ作成の基礎データ

教育関係者

地域の地理、地学教育の資料・文献

土地に関する企業

地盤の適否の判断や開発適地の抽出

住民

地盤の適否の判断

現在住んでいる土地の災害に対する安全度